

県央水戸アグリ情報

令和4年度 第1報
(令和4年7月29日発行)

発行：県央農林事務所経営・普及部門
(水戸地域農業改良普及センター)
水戸地方農業改良推進協議会
Tel 029-227-1521
Fax 029-225-0955



令和4年度水戸地域「農業学園」受講生を募集しています

普及センターでは、就農して間もない農業者(おおよそ就農3年目までの方)を対象に農業経営における知識や技術を学ぶための講座として「農業学園」を開催しています。講座では、意見交換など交流する場を設け、受講生同士の仲間づくりも支援しています。申し込み頂いた方には各講座の開催前に通知文をお送りします。ご興味のある方はお気軽に普及センターまでご相談ください。



農業機械研修の様子(令和3年度)



先輩農業者のほ場見学の様子(令和3年度)

※時期や講座内容は変更になる場合がございます

| 時期 | 講座内容 |
|------|---------------|
| 7月5日 | 開講式、先輩農業者ほ場見学 |
| 8月5日 | 経営管理講座 |
| 9月 | 病害虫防除・農薬講座 |
| 10月 | 種苗会社見学 |
| 11月 | 土づくり講座 |
| 1月 | 農業機械研修 |
| 2月 | 閉講式、先輩農業者ほ場見学 |

レンコンネモグリ センチュウ対策

レンコン収穫後の 夏期石灰窒素処理に取り組んでみませんか？

レンコン収穫後の石灰窒素処理は、気温が高い夏期に行うとレンコンネモグリセンチュウに対して高い防除効果と発生抑制効果が見込めます(図1)。一方で、夏期(7~9月)は周囲にレンコンが生育しているほ場が多いことから、石灰窒素の有効成分(シアナミド)が溶け込んだ田面水が漏水などで周辺ほ場に流入した際にレンコンへの薬害が懸念されます。

令和3年度の園芸研究所の試験において、夏期に石灰窒素を100kg/10a処理した場合、処理したほ場と隣接するレンコン田の田面水のシアナミド濃度はレンコン葉や生育に影響する濃度(60mg/L)まで上がらず、薬害のリスクは低いことがわかりました(図2)。

レンコン収穫後の夏期石灰窒素処理にあたっては、周辺ほ場を管理する農家と相談の上で実施し、事前の畦畔補修や処理後の当日混和と14日間の止水管理を徹底してください。また、石灰窒素そのものが周辺のレンコン茎葉や塊茎に飛散・接触した場合は薬害を生じる恐れがありますので、風のないときや風向きに注意して散布してください。

レンコン黒皮症の総合防除法や石灰窒素使用時の注意点など、詳細は普及センターまでご相談ください。

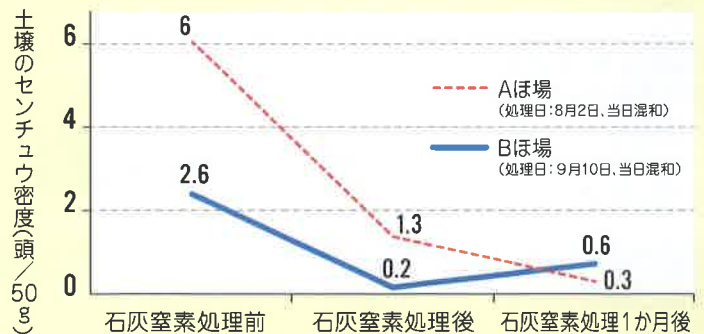


図1) 石灰窒素8~9月処理前後の土壤中のセンチュウ密度の推移(令和1年)

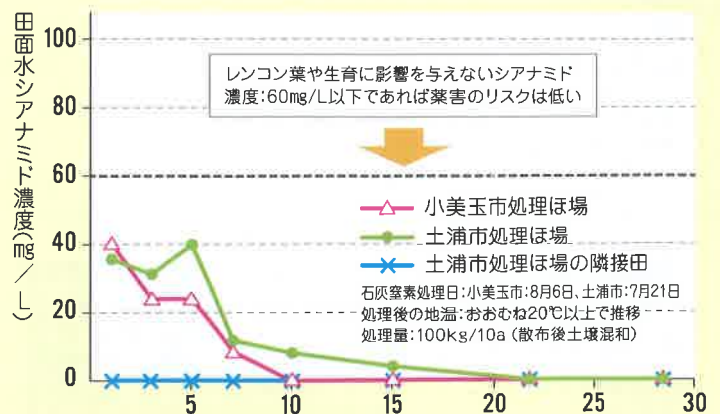


図2) レンコン収穫後の夏期に石灰窒素を処理した際のシアナミド濃度の推移(令和3年)(園芸研究所令和3年度主要成果より抜粋)

※石灰窒素は野菜類でセンチュウ類の登録有(令和4年6月22日現在)

収穫期のサツマイモ基腐病の

防除対策 について

サツマイモ基腐病は糸状菌(カビ)により引き起こされ、保菌した苗・イモ・残さ(葉や茎の残さ)などが伝染源となります。発生すると防除が難しく、被害が拡大する恐れがあるので、収穫期には以下の対策に努めましょう。



①収穫前の準備

- コンテナなどの洗浄および消毒
- 収穫前のほ場の観察
(生育不良、株元の黒変を伴う葉の変色、枯死など)

②収穫から貯蔵中の対応

- 収穫したイモのほ場の記録およびほ場ごとの管理
 - イモの変色・腐敗・萌芽やつるの黒変の有無の確認
 - 他のほ場で作業する前の農機具・長靴などの洗浄・消毒
- 疑わしい症状を見つけた場合は、速やかに普及センターまでご相談ください。

雑草イネに注意!



雑草イネとは

- 栽培品種に比べて籾が脱粒しやすく、水田内で交雑を繰り返して雑草化したイネ。
- 玄米は、赤色や褐色に着色していることが多く、等級落ちや異品種混入の原因となる。

主な特徴

- 出穂期や草丈が異なる。
- 籾の先端や、のげが着色している(写真)。
- 籾が落ちやすい。



雑草イネ

栽培期間中に見つけたら

- できるだけ早い時期(脱粒が始まる前)に抜き取る。
- 拡散防止のため、発生圃場の機械作業は最後に行う。
- 収穫後は、耕起せず、冬の寒さにさらして種子を死滅させる。
管内でも発生が見られています。疑わしい場合や、次年度以降の対応については普及センターへご相談ください。

水戸地域(管内)の農業後継者クラブ等紹介

水戸市農業後継者クラブ

イベントにおける農産物出店や会員同士のほ場巡回を行っています。また、わらつと納豆生産支援などの地域活動に取り組んでいます。



茨城町4Hクラブ

月に1回の定例会や、研修会、視察、ほ場巡回等の活動をしています。HAERUマーケットの開催による地域活性化にも取り組んでいます。



小美玉農業青年クラブ

野菜、果樹、水稻等様々な品目の若手農家が集まっています。クラブ員のほ場巡回、販売会の参加や子ども食堂への食材提供など、コロナ禍でも可能な内容を考え、積極的に活動しています。



ひたちなか市農業後継者クラブ

主に干し芋生産者が集まって、干し芋の原料となるサツマイモの増収を目指した試験や、イモ掘り体験会などの活動を行っています。



那珂市農業後継者クラブ

先進地視察研修や市主催のイベントへの参加など、仲間との交流を通じて知識や技術を深めています。遊休農地解消にも取り組んでいます。



いばらき新規就農者ネットワーク

主に非農家出身の認定新規就農者が集まり、交流会やほ場見学、新規就農者との意見交換会やWEBラジオなど、情報発信や仲間づくりに取り組んでいます。



農業三士紹介

管内では、令和4年度に新たに農業経営士1名、女性農業士2名が認定され、農業経営士35名、女性農業士12名、青年農業士18名となりました。新たに認定された方を紹介します。また令和3年度に農業経営士2名、女性農業士2名、青年農業士2名が退任されました。

女性農業士 **大和田 綾子氏** (ひたちなか市長砂)

家族と女性を中心とした臨時雇用により干し芋と水稻を経営しています。雇用者が働きやすい環境づくりを心掛けています。全国の女性農業者とネットワークを構築しており、これを活かして、後継者育成や食育などの活動が行われることが期待されます。



農業経営士 **吉川 利弘氏**

(水戸市塩崎町)

家族中心で水稻経営を行っています。主食用米の需要が減少するなか、飼料用米、輸出米及び加工用米などをバランスよく作付けしています。地域の中核的な担い手としての役割が期待されます。



女性農業士 **山崎 みゆき氏**

(水戸市加倉井町)

家族中心でハウスニラ、露地ニラ、ハウスネギ及びニンジンなど多品目を栽培しています。余裕をもった農業経営を目指しており、今後、地域で指導力が発揮されることが期待されます。

